

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		ILIS CLUB 玉造				公表日	2026年 3月 1日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	7	3	メインフロア、個室の広さは適切。のびのびと過ごせる環境に設定している。	運動の活動ではもう少し広いスペースが必要と感ずることがある。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	6	4	児童に対して職員配置がなされている。		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	9	1	児童に分かるように壁に表示が貼られている。バリアフリーである。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	9	1	清潔で常に整えられている。のびのびと過ごせる環境に設定している。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	10		児童のクールダウンの為に個室が使えるようになっている。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	8	2	朝終礼時に目標の設定、振り返りを供しており、一体となって考えている。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	10		アンケートを使用している。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	10		朝終礼などで意見が出しやすい環境が出来ている。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	9	1	改善に繋げている。		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	10		オンライン研修など受講することが多い。		
適切な支援	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	9	1	職員がすぐに手に取りやすい場所にプログラムがあり、すぐに確認ができる。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	10		アセスメントを保護者に聞き取りが出来ている。		
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	9	1	話し合いのうえで職員に下ろしている		
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	10		共有され、計画に沿って進められている。		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	9	1	コノベルを使用し、記録が取れている。		
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	10		どのように支援したらよいか設定されている。		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	10		話し合ったり、相談した上で進めている。		

援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	10		常に新しい活動を検討し、実施している。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	10		保護者、子どもの様子に応じて作成、支援している。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	10		分かりやすく周知され、スケジュールが見やすい所に貼りだされている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	9	1	終礼にて行っている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	10		毎日記録を取り、見返せるようになっている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	10		半年に1回以上行っている。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	10		ガイドラインを参考にしている。組み合わせ、支援を行っている。	
25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	10		行いたいことを尋ねることで主体的に活動ができる環境が作られている。		
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	10		情報共有を行なわれている。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	8	2	相談支援等の繋がりがあります。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	10		電話やコノベル等で行っている。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定子ども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	10		相互理解できるように努めている。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	6	4	提供できるように努めている。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	5	4	モニタリングの機会に行っている。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	7	3	イベントなどで交流が出来ている。	
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	2	7	区で行っている連絡会に参加している。	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	9	1	毎日話し合う場を設けられている。	
35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	8	2	定期的に行っている。		
36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	10		送迎時等で伝えている。		
37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	10		保護者の意思を聞き、定期的に話し合っている。		
38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	13		計画に納得いただき、説明している。		

保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	12	1	個別療育でしっかりと支援を行っている。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	12	1	保護者と交流する場を設けられている。	
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	13		対応の体制を整備、同じことが起こらないように振り返りをしている。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	13		SNSとブログ等で活動についての周知をしている。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	13		倉庫に鍵をかけ、パソコンも全てパスワードがかけられている。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	13		療育に通っていることを知られたくない保護者さんもおられるので外で見かけても自ら話すことはない。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	8	4	招待するイベントを少ない回数ではあるが行っている。	
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	11	2	定期的に研修を行っている。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	12	1	定期的に訓練を行っている。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	13		職員全体に周知し、対応の仕方など書面で残している。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	11	2	ご飯やおやつをメインフロアで食べないように避けている。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	13		定期的に訓練を行っている。	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	11	2	利用者閲覧ファイルにて周知している。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	13		職員全体に周知し、再発防止を検討している。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	13		研修制度があり、学ぶことができます。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	12	1	組織的に決定され、職員全体に周知されている。		